

ベオグラード大学における日本語教育

淵上真由美 和田沙江香 (ベオグラード大学)
mfucchi@hotmail.com saeka-elmo@nifty.com

1. ベオグラード大学日本語専攻課程における日本語教育の概要

ベオグラード大学言語学部（文学部ということもある）には、スラブ学科、ゲルマン学科など15の学科と、それに属するセルビア語専攻課程、ドイツ語専攻課程など、28の専攻課程があり、日本語専攻課程はアラビア語、トルコ語、中国語専攻課程とともに東洋学科に属する。正式名称はベオグラード大学言語学部東洋学科日本語・日本文学専攻課程である。なお、本稿では日本語専攻課程とする。ベオグラード大学における日本語教育は、1976年に副専攻語の一科目として始まった。1985年に日本語専攻課程が発足し、4年間で中級レベルまでの日本語と日本文学史、日本事情などが学べるカリキュラムとなり現在に至る。

学習者数は1学年50名前後で、教師は日本人教師4名、セルビア人教師8名である。主教材として東京外国語大学留学生日本語教育センターの『初級日本語』、『中級日本語』を使用し、1、2年生が『初級日本語』、3、4年生が『中級日本語』で学んでいる。授業の進め方は、セルビア人教師がセルビア語で文法解説、本文・例文の翻訳、文型練習を行い、日本人教師が日本語で文型練習、漢字の導入、会話練習を行っている。授業は1コマ90分で、日本語の授業は週6コマから7コマ設けられている。前期が10月中旬から12月末、後期が2月初旬から5月末までで、授業は前期に12～13週、後期に13～14週行われる。

ベオグラード大学日本語専攻課程では、以下のような日本語に関係する科目があり、この他に第二外国語や哲学、心理学等の科目も学ばれている。なお、以下の科目はボローニャ・プロセス（3.参照）導入後の科目である。

表1. ベオグラード大学日本語専攻課程の主な科目（[]内はコマ数、#は半期のみ）

学年	必修科目	選択科目
1年生	日本語Ⅰ [7]・文法Ⅰ [1#]・正字法Ⅰ [0.5]・日本学入門 [2]	日本文学入門 [1#、2年次でも可]
2年生	日本語Ⅱ [6]・文法Ⅱ [1#]・正字法Ⅱ [0.5]	日本語講読 [1#]・日本文学入門 [1#]
3年生	日本語Ⅲ [5]・文法Ⅲ [1#]・日本文学Ⅰ [1]・日本文明学基礎 [1]	文章翻訳Ⅰ [1]・日本文学講読Ⅰ [1#]・正字法Ⅲ [0.5]・日本史 [1]・日本経済史Ⅰ [1#]
4年生	日本語Ⅳ [4]・文法Ⅳ [1]・日本文学Ⅱ [1]・日本社会文化史 [1]	文章翻訳Ⅱ [1]・日本文学講読Ⅱ [1#]・正字法Ⅳ [0.5]・日本経済史Ⅱ [1]

2. ベオグラード大学日本語専攻課程の学習者の状況

ベオグラード大学日本語専攻課程の学習者の状況を調べるため、2008年5月、日本語専攻課程の学生を対象に、日本語学習に関するアンケート調査を行った。ここでは、その結果を報告する。資料としてアンケートの日本語版を掲載するが、アンケートは英語で行った。

2-1. 学習者に関する基本情報

まず、ベオグラード大学日本語専攻課程の学習者に関する基本的な情報や日本語学習歴、日本語の学習動機等を表にまとめる。

表 2. 学年

学年	人数(人)
1年	38
2年	26
3年	6
4年	8
合計	78

表 3. 性別

性別	人数(人)
男	28
女	50
合計	78

表 4. 入学年度

入学年度	人数(人)
2007年度	38
2006年度	24
2005年度	5
2004年度	9
2003年度以前	2
合計	78

表 5. 年齢

年齢	人数(人)
18～19歳	25
20歳	25
21歳	9
22歳	10
23歳以上	9
合計	78

表 6. 日本語学習歴

日本語学習歴	人数(人)
1年未満	35
1年以上～2年未満	20
2年以上～3年未満	7
3年以上～4年未満	7
4年以上	9
合計	78

表 7. 大学入学以前の日本語学習

学習経験の有無	人数(人)
あり	13
なし	65
合計	78

表 8. 大学入学以前に学んだ場所

学習した場所	人数(人)
高校(4年間)	9
小学校	1
個人レッスン	1
その他	2
合計	13

表 9. 既習言語の数

既習言語数	人数(人)
1言語	15
2言語	35
3言語	20
4言語以上	8
合計	78

表 10. 既習言語

主な既習言語	人数(人)
英語	77
フランス語	24
ロシア語	23
ドイツ語	22
その他(10言語)	35
合計	181

表 11. 英語学習歴

英語学習歴	人数(人)
8年未満	14
9年	7
10年	14
11年	7
12年以上	18
合計	60

表 12. 日本への渡航経験

渡航経験	人数(人)
あり	3
なし	75
合計	78

表 13. 日本滞在期間

期間	人数(人)
2週間	1
5週間	1
6週間	1
合計	3

表 14. 日本への渡航目的

目的	人数(人)
語学研修	2
旅行	1
合計	3

表 15. 日本語学習の動機

動機	人数 (人)
日本語への興味	44
日本文化への興味	31
日本語は他の言語と違う・珍しい	17
日本人への興味	10
日本語を学ぶことに利益がある	8
日本語学習は自分にとって挑戦	7
日本への興味	5
日本の生活様式、習慣への興味	4
日本と関係のある職業につきたい	4
日本の国力の強さ・技術	4
その他	23
合計	157

表 16. 日本語専攻課程に入学した動機

動機	人数 (人)
日本語への興味	28
言語学習・言語が好き、得意	22
日本文化への興味	16
日本語学習は自分にとって挑戦	16
日本語は他の言語と違う・珍しい	10
日本語が学べる唯一の場所・よい大学	9
日本人への興味	7
日本へ行きたい、日本に住みたい	6
日本と関係のある職業につきたい	6
高校で日本語を学んでいたから	6
その他	15
合計	141

アンケートの結果を見ると、本大学の学習者の特徴として、大学入学時、日本語が未習の学生が多いこと、ヨーロッパの言語をいくつか学んだ学生が多いこと、日本へ行ったことのある学生が非常に少ないということがあげられる。なお、大学入学以前に日本語を学習したことがある学生の多くは、ベオグラード語学専門高等学校の日本語コースで4年間日本語を学んでいる。

日本語の学習動機については、日本語や日本文化に興味があるという学生が多い。また、本大学の言語学部の日本語専攻課程に入学した理由は、日本語の学習動機と重なる回答もあるが、言語学習が得意、あるいは好きで、日本語はヨーロッパの言語と違って、日本語を学ぶことが自分にとって挑戦であると感じている学生が多いようだ。

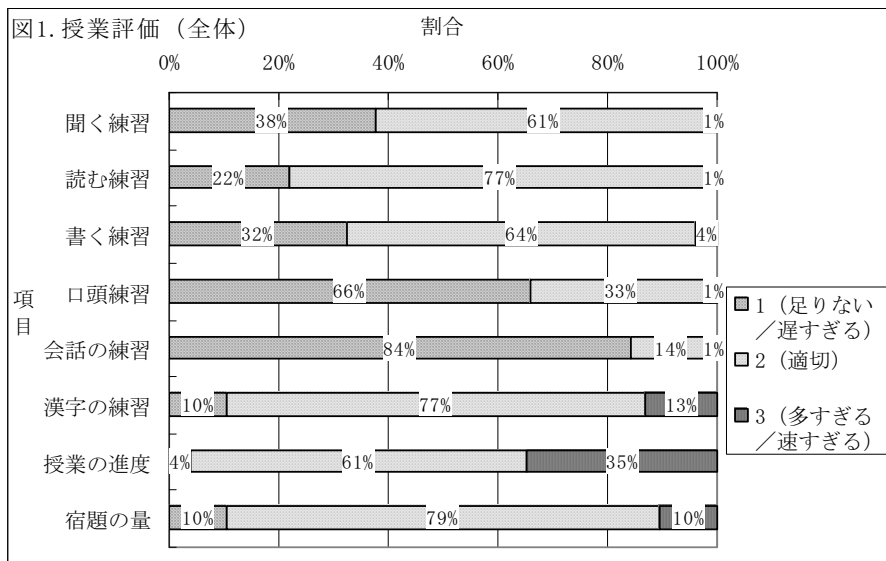
2-2. ベオグラード大学における日本語の授業に対する評価

ここでは、日本語の授業（主に表 1. の日本語 I～IV、正字法の授業）に関して、言語の 4 技能や授業の進度等についてどう感じているかを調査した結果とその考察をまとめる。

まず、表 17 と図 1 に、全体の結果を示す。

表 17. 授業評価（全体）

	聞く 練習	読む 練習	書く 練習	口頭 練習	会話の 練習	漢字の 練習	授業の 進度	宿題の 量
1 (足りない／遅すぎる)	29 (38%)	17 (22%)	25 (32%)	50 (66%)	64 (84%)	8 (10%)	3 (4%)	8 (10%)
2 (適切)	47 (61%)	59 (77%)	49 (64%)	25 (33%)	11 (14%)	59 (77%)	46 (61%)	61 (79%)
3 (多すぎる／速すぎる)	1 (1%)	1 (1%)	3 (4%)	1 (1%)	1 (1%)	10 (13%)	26 (35%)	8 (10%)
合計	77	77	77	76	76	77	75	77



全体の結果を見ると、言語の4技能のうち、会話の練習、口頭練習が足りないと感じている学生が多いことがわかる。会話の練習、口頭練習は日本人講師が主に担当し、他の練習とのバランスも考えて行っているが、セルビア人教師は主要教材の文法解説、本文の翻訳を中心に行っているため、日本語の授業全体で見ると、会話の練習が少ないのではないかと考えられる。

漢字の練習以外については多すぎると感じている学生は1~4%と非常に少ないが、漢字の練習が多すぎると感じている学生が13%いる。これは、主要教材の漢字指導に加え、1、2年生の正字法で漢字の指導の時間が十分にあるからと思われる。

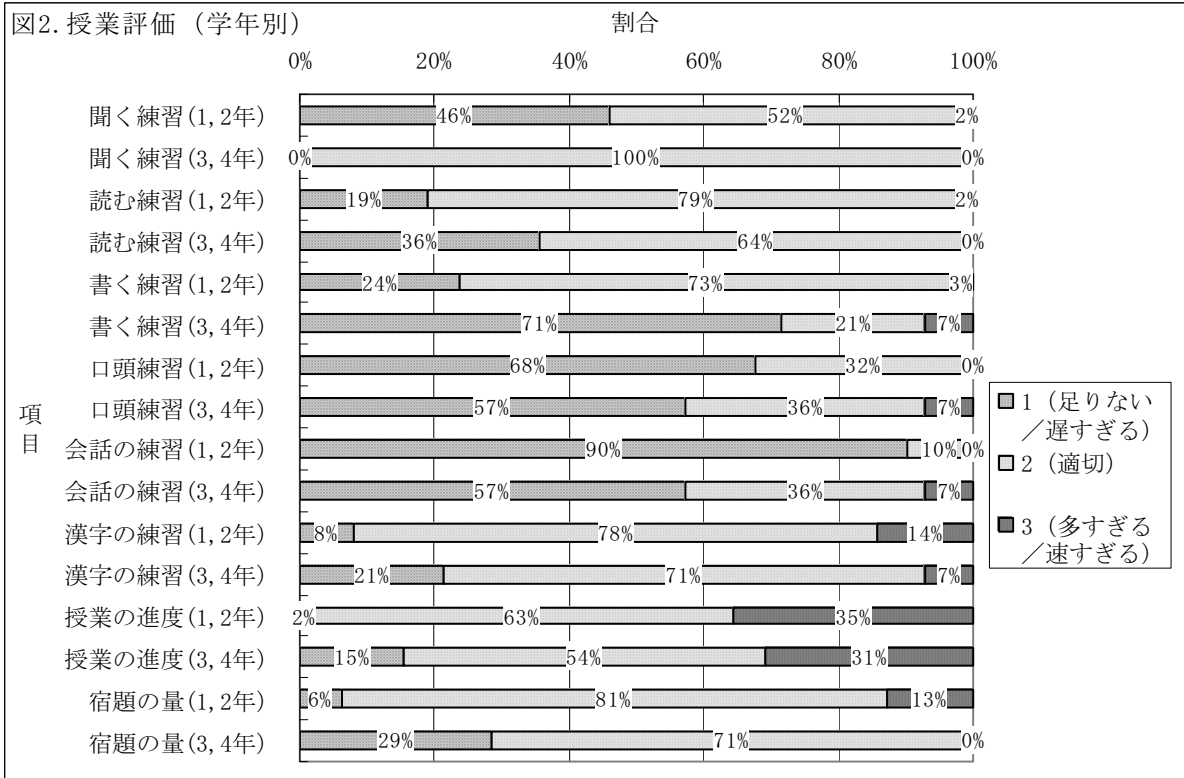
次に、1、2年生と3、4年生を比較した結果を表18、表19と図2に示す。1、2年生に比べ、3、4年生の回答数が少ないが、1、2年生は初級、3、4年生は中級レベルということで比較することにした。

表18. 授業評価 (1、2年)

	聞く練習	読む練習	書く練習	口頭練習	会話の練習	漢字の練習	授業の進度	宿題の量
1 (足りない/遅すぎる)	29 (46%)	12 (19%)	15 (24%)	42 (68%)	56 (90%)	5 (8%)	1 (2%)	4 (6%)
2 (適切)	33 (52%)	50 (79%)	46 (73%)	20 (32%)	6 (10%)	49 (78%)	39 (63%)	51 (81%)
3 (多すぎる/速すぎる)	1 (2%)	1 (2%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	9 (14%)	22 (35%)	8 (13%)
合計	63	63	63	62	62	63	62	63

表19. 授業評価 (3、4年)

	聞く練習	読む練習	書く練習	口頭練習	会話の練習	漢字の練習	授業の進度	宿題の量
1 (足りない/遅すぎる)	0 (0%)	5 (36%)	10 (71%)	8 (57%)	8 (57%)	3 (21%)	2 (15%)	4 (29%)
2 (適切)	14 (100%)	9 (64%)	3 (21%)	5 (36%)	5 (36%)	10 (71%)	7 (54%)	10 (71%)
3 (多すぎる/速すぎる)	0 (0%)	0 (0%)	1 (7%)	1 (7%)	1 (7%)	1 (7%)	4 (31%)	0 (0%)
合計	14	14	14	14	14	14	13	14



聞く練習について見ると、3、4年生は全員が適切と答えているが、1、2年生は足りないと感じている学生が46%いる。また、会話の練習は、全体的に足りないと感じている学生が多いが、3、4年生よりも1、2年生の方が足りないと感じている学生の割合が多い。授業では、全学年で聴解、会話の練習をしているが、3、4年生は日本人講師の授業が日本語で進められるのに対し、1、2年生では英語を媒介とすることが多いため、このような結果が出たと考えられる。

書く練習については、1、2年生は7割が適切と感じているのに対し、3、4年生は7割が足りないと感じている。書く技能を伸ばすためには、主に作文を宿題として課しており、その量は全学年でほとんど変わらない。しかし、3、4年生は宿題が成績と関係なく、提出率も低いため、足りないと感じたのではないかと考えられる。また、宿題の量について、3、4年生は多すぎると感じている学生がいないのに対し、1、2年生では多すぎると感じている学生がいるという結果が出たのも、宿題が成績と関係あるかどうかということが関わっているのかもしれない。

漢字の練習は全学年で7割以上が適切と感じているが、多すぎると感じている割合は3、4年生より1、2年生の方が多く、足りないと感じている割合は3、4年生の方が1、2年生より多い。これは、1、2年生では正字法の科目で週1時間漢字の授業が確保されており、3、4年生よりも漢字指導の時間が多いためではないかと考えられる。

授業の進度は適切と感じている学生が多いが、3、4年生では、遅すぎると感じている学生が15%と、1、2年生の2%より多い。これは、3、4年生になると学生間のレベル差が開き、また、実際は1、2年生の試験に合格していない学生も3、4年生の授業に出席しているためと考えられる。

以上の結果をふまえ、今後は特に会話の練習の時間を充実させ、言語の4技能をバランスよく伸ばせるよう、授業を工夫していきたい。

3. ボローニャ・プロセスについて

3-1. ボローニャ・プロセスとは

1999年6月に、イタリアのボローニャに欧州連合（EU）15か国（当時）を含むヨーロッパ29か国の教育関係大臣が集まり、2010年までに高等教育における欧州圏を構築することを目標としたボローニャ宣言がなされた。同宣言の目標は、以下の6つである。

- ・他国の大学との比較可能な学位制度の確立
 - ・学部、大学院という2段階式構造の構築
 - ・ヨーロッパ単位互換制度の促進
 - ・学生、教員のヨーロッパ内の移動を可能とする環境作り
 - ・ヨーロッパ次元での、高等教育の質の保証
 - ・カリキュラム開発等の協力を通じた、高等教育におけるヨーロッパの一体化の推進
- ボローニャ・プロセスとは、ボローニャ宣言を実際に進めていく過程のことである。

3-2. ボローニャ・プロセス導入によるカリキュラムの変化

ベオグラード大学では2006年度よりボローニャ・プロセスを導入しており、2008年度の新1、2、3年生は新制度のカリキュラム、新4年生は旧制度のカリキュラムで学んでいる。

ボローニャ・プロセス導入により以下の4点の変化があった。

- ・試験回数の削減
1年に5回（6, 9, 10, 1, 4月）あった試験の機会が3回（6, 9, 10月）に減った。3回目の試験でも通らなかった場合、10月から始まる次年度に上がれない。
- ・授業時間単位の変更
授業時間が1コマ2時間から1コマ90分となった。ただし、従来の1コマには休憩・移動時間等も含まれていたため、実質的な長さはあまり変化していない。現在は授業と授業の間に15分の休憩時間が設けられている。
- ・選択科目の増加
選択科目が増え、選択の幅が広がった。これまで日本語という1つの科目の中で行われていたものが、文法や正字法など独立した科目となり、学生がそれぞれの興味に応じ、より専門的に学びたい分野を選べるようになった。
- ・評価方法の変更
これまでは1回の学年末試験の成績がそのまま10段階の成績評価に結びついていた。100点満点の試験で91点以上が10、81点以上が9というように成績がつけられ、51点以上（成績6以上）で合格となっていた。しかし、現在は出席、態度、2回の間中試験、学年末試験の結果を総合して成績がつけられるようになった。配分は科目ごとに異なるが、日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、出席5%、態度5%、中間試験15%×2回、学年末試験60%である。

4. ベオグラード大学における日本語教育の問題点と今後の課題

4-1. クラスサイズ

ベオグラード大学での日本語教育における問題点として、まずクラスサイズの大きさがあげられる。慢性的な教室の不足やカリキュラムの関係で、クラスを分けることができないため1クラス50名という多さとなっている。そのため1人あたりの発言機会が少なく、全体でのリピートが多くなりがちである。

4-2. 学習意欲の維持

セルビアは日系企業も少なく、日本語に関係のある就職先がほとんどないため、日本へ留学した学生ですら、帰国後日本語に関係のある就職口を探すのが困難な状況である。また、日本への留学機会も、以前より増えてきてはいるものの1学年3名程度と少ないため、日本語を勉強してもそれを使用する機会のないまま卒業していく学生がほとんどである。そのため、学年が上がるにつれ日本語学習に対するモチベーションが下がり、授業の出席率もそれに比例して落ちていくというのがこれまでの現状であった。これについては、ボローニャ・プロセス導入により出席率も成績に関わってくることや、同プロセスの目的の1つである、学生のヨーロッパ内での移動可能な環境作りにより、日本語の使用機会が増えることで、改善されることを期待する。

4-3. 教育環境とカリキュラムの検討

日本や他の国と比べ設備の整備が整っておらず、ビデオやDVDなどの視覚教材を使っの授業や、E-Learningによる自宅学習などもほとんど出来ていない。限られた設備の中でいかに工夫して、学生に多様な日本語に接する機会を与えられるかも、大きな課題である。

現在初級を2年間、中級を2年間かけて教えているが、初級を1年で終わらせ、3・4年次には中上級、上級へと進めるようにしたい。

資料：アンケート用紙

実施日 / /

このアンケート調査の目的は、みなさんがベオグラード大学で日本語を勉強することについてどう感じているかを調べるためのものです。他の目的のために利用することは決してありません。また、あなたの日本語の成績とはまったく関係がありませんので正直に答えてください。どうかご協力よろしくお願い致します。

I. あなた自身のことについてお聞かせ下さい。

1. 氏名： _____ 2. 性別： 男 / 女

3. 入学年度： _____ 4. 年齢： _____

5. あなたは日本語をいつから勉強していますか。(例：2007年10月から)

_____ から

6. 大学に入る前に、日本語を勉強したことがありますか。 はい / いいえ

7. (6.で「はい」の人) どこで勉強しましたか。期間はどのぐらいですか。(例：高校で/4年間)

8. 大学以外で、日本語を勉強していますか。期間はどのぐらいですか。(例：個人レッスン・・・)

9. 日本語以外に、どんな外国語を学んだことがありますか(学んでいますか)。/また、それはいつからいつまで、どこで学びましたか(学んでいますか)。(例：英語/2000年~2007年/小学校と高校で)

10. 日本に行ったこと、住んだことがありますか。 はい / いいえ

11. (10.で「はい」の人) それはどれぐらいですか。(例：2週間、1ヶ月間・・・)

12. (10.で「はい」の人) 日本へ、どのような目的で行きましたか。(例：国際基金の日本語研修)

13. あなたは、どうして日本語を勉強していますか。

14. あなたは、どうして言語学部に入學して日本語を選びましたか。

II. ベオグラード大学での日本語の授業についてお聞かせ下さい。

以下の質問について、**選択肢**のうち、あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 聞く練習についてどう思いますか。 | <u>足りない・適切・多すぎる</u> |
| 2. 読む練習についてどう思いますか。 | <u>足りない・適切・多すぎる</u> |
| 3. 書く練習についてどう思いますか。 | <u>足りない・適切・多すぎる</u> |
| 4. 口頭(発話)練習についてどう思いますか。 | <u>足りない・適切・多すぎる</u> |
| 5. 会話の練習についてどう思いますか。 | <u>足りない・適切・多すぎる</u> |
| 6. 漢字の練習についてどう思いますか。 | <u>足りない・適切・多すぎる</u> |
| 7. 毎回の授業の進度についてどう思いますか。 | <u>遅すぎる・適切・はやすぎる</u> |
| 8. 宿題の量についてどう思いますか。 | <u>足りない・適切・多すぎる</u> |

* その他、日本語の授業について感じていることがありましたら何でも書いてください。

ご協力ありがとうございました。

ベオグラード大学 瀧上真由美・和田沙江香